



4 廃棄物

(1) 一般廃棄物

家庭などから出るごみは、産業廃棄物とは区別して、「一般廃棄物」と呼ばれます。

平成6年度の一般廃棄物総排出量は285千t、県民一人当たり一日の排出量は946gで、前年度に比べると約1%増加していますが、ここ数年は概ね横ばいに推移しています。

一方、平成5年度でみると、福井県の県民一人当たりのごみの処理経費は1万4千円（全国平均では1万8千円）となっています。全国的にみると、ごみの排出量が横ばいであるのに対して、処理費用は増加していますが、この背景には、排出されるごみ質の変化と環境保全に対応するためのごみの高度処理化のすう勢が考えられます。

しかしながら、どのように高度処理しても、必ず「灰」が残ります。最終処分場の立地が困難さを増す一方の今日、処分場の延命化を図るためには、灰の有効利用について検討を進めなければなりません。ごみの排出量そのものを抑えるという対策の原点に立ち返って、ごみの減量化とリサイクルが繰り返し呼び掛けられています。

平成6年度のごみの資源化率は7.3%であり、年々増加傾向にありますが、ごみの減量化と資源の有効利用を進めるため、県下の多くの市町村では分別収集と指定ごみ袋制の導入が実施されています。

市町村がごみの処理をするためには税金が使用されますが、ごみ処理には多くの経費がかかっていることを住民の人たちに実感してもらうことにより減量化へ誘導することを目的として、指定ごみ袋の価格にごみ処理費を上乗せする（言わば、ごみ処理の有料化）自治体は、県内で7町となっています。

■県内のごみの総排出量の推移

